



広島市指定重要有形文化財 旧広島地方気象台

広島市江波山気象館

ひろしまたてものがたりフェスタ2019建物ガイドツアー

令和元年11月10日(日)午後2時15分～午後3時(予定)

ご案内役：広島市江波山気象館長 松田智仁(一級建築士)

ご案内役とともに館内外を巡りながら、建物のみどころなどについてご説明いたします。

参加費：無料 ただし別途入館料が必要です。

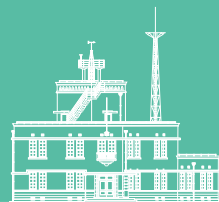
大人100円、シニア・高校生50円、中学生以下無料

参加希望の方は、当日午後2時15分までに、気象館受付前にお集まりください。

広島市中区江波南一丁目40-1 TEL(082)231-0177 FAX(234)-1013

<http://www.ebayama.jp>

広島市江波山気象館は、広島県魅力ある建築物100セレクションに選定されています。



SINCE 1934

広島市指定重要有形文化財 「旧広島地方気象台」

旧広島地方気象台の庁舎は、昭和9年に広島県立広島測候所として建築され、昭和14年に国営移管、気象台が昭和62年に中区上八丁堀の合同庁舎に移転するまでの間、気象観測や天気予報の現場として使用されました。

建物は鉄筋コンクリート造で、戦前の建物の特徴と新しいモダンなデザイン要素をあわせもつ、建築技術的、デザイン的にも非常に優れた建物であり、平成12年7月に広島市の重要有形文化財に指定されました。

戦前の鉄筋コンクリートの建物は戦争のため、昭和14年ごろを境にその建築が行われなくなります。このことから、旧広島地方気象台は戦前の鉄筋コンクリートの建物としては最末期のものといえます。



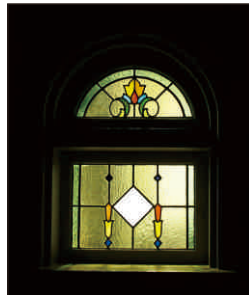
1934年竣工当時の広島測候所



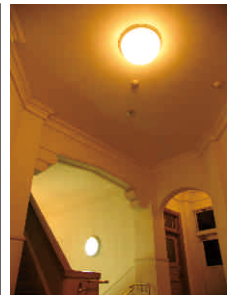
旧測風塔



ステンドグラス(玄関)



ステンドグラス(受付窓)



内部の装飾

被爆建物

小説「空白の天気図」の舞台

昭和20年には原子爆弾により被災しましたが、職員による気象観測は1日も休むことなく続けられました。同じ年の9月には枕崎台風が広島を襲い、このときの様子は柳田邦男氏の小説「空白の天気図」でも詳しく紹介されています。

館内には、当時の気象台職員による原子爆弾被害調査の資料や原爆の爆風により壁に刺さったガラス片、曲がった窓枠などの被爆の傷跡も展示されています。



壁に刺さったガラス片と曲がった窓枠



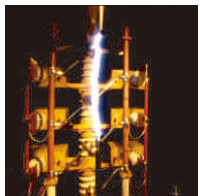
カンペル日照計と1945年8月6日の記録紙



原子爆弾被害調査資料(降雨継続時間分布)

体験のできる気象博物館

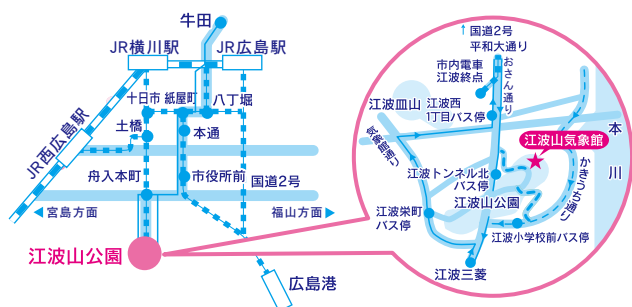
風速20メートル(秒速)の体験・人工の雲に入る体験・雷の放電実験コーナーで気象の体験ができます。また、屋上等には気象観測機器の展示もあり、展望スペースからは360°のパノラマが広がります。



風速20メートルの体験・人工の雲・雷の放電実験

屋上展望スペースからの眺め

アクセス



- 広島電鉄市内電車路線
- 広島電鉄バス 路線

バス=広島電鉄舟入本町経由江波方面行
江波栄町下車 500m

電車=広島電鉄江波行
江波終点下車 1km(江波山頂上・標高30m)

- ← 矢印はバス路線
- ← 矢印はバス路線(かきうち通り経由)
- 徒歩コース(途中に階段があります。)
- ※車は通行できません